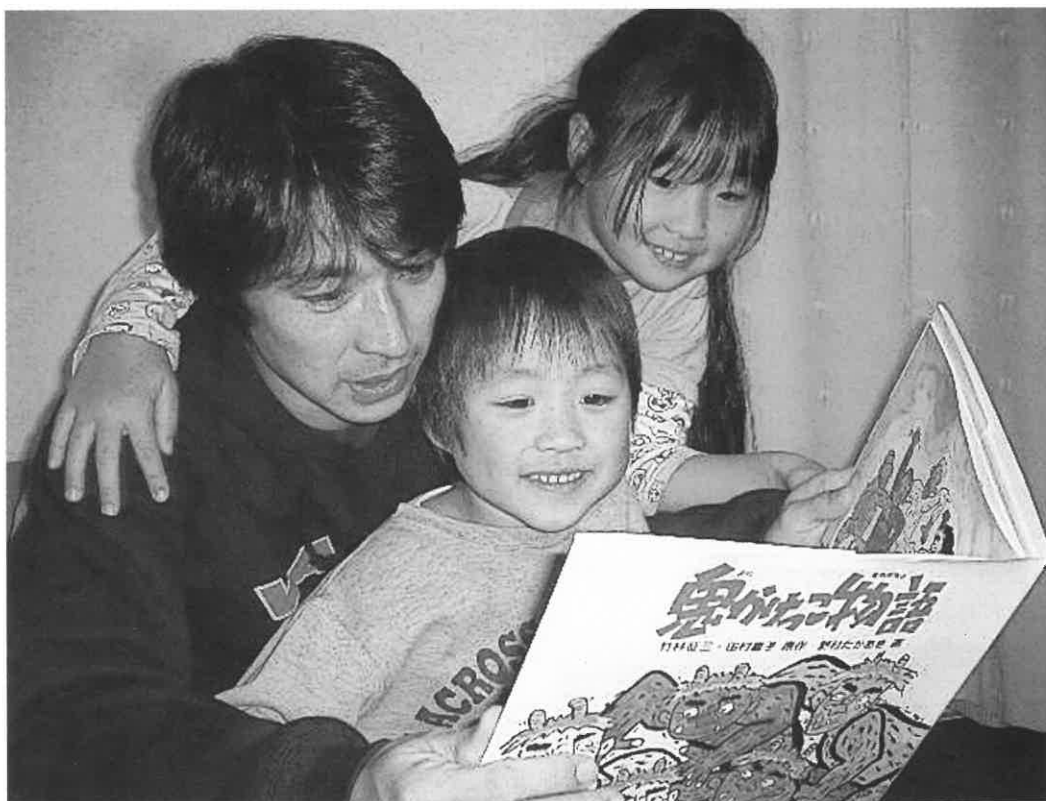


鬼 だ	北上市立	館 より
	の よ	
第17号		



北上市相去町 石川健諭さん協力

「鬼かけっこ物語」発刊

「ふるさと創作民話鬼絵本化発掘事業」として一般から公募した119作品から選ばれた1点が、ついに絵本として登場しました。北上のもうひとつの“鬼”となった「鬼かけっこ物語」は、県内の市町村立図書館や市内の子供達に関係する施設（学校・公民館・小児科医他）及び希望する170名の市民に無料配布されました。

読み聞かせをとおり親子で楽しみながら鬼に触れ、北上を知ってもらえるとうれしいです。

写真でみる 鬼の館上半期

◆特別展◆

北上こけし会コレクション 第1期 5/14～6/30
～みちのくのこけし展～ 第2期 7/4～9/29



鬼の館施設開放事業の一端として、北上こけし会の協力を得て開催した展示事業です。

展示資料は、すべて個々の会員が東北各地を回り収集したもので、すべてが伝統こけしで占められています。

第一期展示は、コレクション資料の展示を中心にし、第二期展示はこけしを系統ごとに分類して展示しました。

こけしを生み出した木地業の歴史、各産地のこけしの特徴や伝統的な製作技術をご覧いただきました。

また、会期中「夏休み親子体験講座」とし“こけしの絵付け体験”も行いました。



夏休み親子体験講座—こけしの絵付け— 8/3

◆特別展◆

平成13年度 収蔵資料展 3/10～5/6

鬼の館が広く皆様からご協力いただいた寄贈・寄託資料並びに購入資料等を公開展示しました。

様々なものに表される鬼の数々をご覧いただきました。



◆鬼の館・芸能公演◆

毎月第4日曜日午後1時30分(12月～2月を除く)
鬼剣舞を中心とした民俗芸能公演です。
仏の化身、角のない鬼が舞い踊ります。



二子鬼剣舞保存会

◆第9回大乘神楽大会◆

6/9 午前10時～午後4時30分

—出演大乘神楽保存会—

・長清水山伏神楽・上宿和賀神楽・村崎野大乘神楽・宿大乘神楽・和賀大乘神楽・道の上山伏神楽・新平神楽

—特別出演—

・早池峰大償流土沢山伏神楽保存会
(岩手県指定無形民俗文化財保持)

8団体により17演目が披露されました。盛岡大学文学部長 門屋光昭氏による解説も行われ、集まった観客を魅了しました。



天照五穀 土沢山伏神楽

◆鬼学講座◆

生涯学習の一端として開講している成人対象の講座です。

「鬼の源流を求めてパートⅦ～みちのくの道祖神～」とし、今年度は東北県下から講師陣を迎え、東北の民間信仰をとおし、鬼についての理解を深めます。

全6回 移動研修あり



青森郷土館 成田先生の講演風景

◆鬼っこわんぱく講座◆



溶鉱炉づくり 7/7

毎年開講している小学生対象の講座です。

14年度前期は岩手中部地区広域市町村圏事務組合との共催、「もののけとタカラ体験」と題し、2人の刀匠の指導で溶鉱炉造りから精錬まで4回に亘り製鉄体験をしました。

後期は岩崎鬼剣舞保存会の指導のもと、鬼剣舞を体験します。

常連もいる程、楽しく元気な講座です。



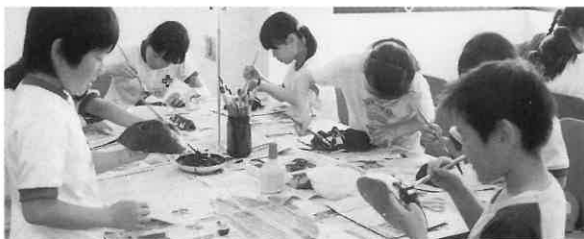
「キラキラ鬼ふうせんをつくろう」5/5

「5月5日こどもの日ワクワクイベント」は自由参加、多くの親子が“鬼”を楽しみました。

◆鬼ZZ・プレイミュージアム◆

鬼になったり、おにで遊んだり、オニを作ったりできる、子どものための遊び場です。

—毎週土曜日を中心に活動、夏休み・冬休みにはワークショップも開催—



総合学習で「鬼剣舞面づくり」岩崎小学校 4年生 5/29

平成11年、文部省実施の「全国こどもプラン～親しむ博物館づくり事業～」に採択され始まった「鬼ZZ・プレイミュージアム」は、参加体験型の展示（鬼に変身）・五感を働かせて行う創作活動（はりこ面づくり）を通じた、体験学習空間を設けることをねらいに今年で4年目になります。

活動の中心となっている「はりこのお面づくり」は地元産の和紙を用い、張り子の技法により仮面を製作します。仮面の型に民俗芸能の鬼剣舞

面を取り入れた事もあり、人気は上々です。

年齢・人数・時間によってニーズに合わせた対応ができるのも受け入れられた大きな理由といえるでしょう。

開設当初は個々の利用者が大半でしたが、最近では、子供会、PTA、学童保育所等団体で予約を入れての利用や、小学校の総合学習、養護学校の校外学習等に活用されています。

また、活動し始めると大人から参加希望の声が多く聞かれ、それに答える第1段階として夏休み・冬休みには「親子で体験はりこ面づくり」を実施し、好評を得ました。

創作活動をとおし、楽しみながら鬼に親しんでいけたらと思っています。



夏休みワークショップ—魔よけすだれづくり— 8/16

企画展 16

「魑 魅 魍 魎 展」

～田澤茂の精神世界～

平成14年10月7日(月)～11月24日(日)

田澤茂氏は、青森県田舎館村出身で神奈川県藤沢市に在住する新制作協会に所属する画家です。

「魑魅魍魎」とは、“山神”や“すだま”など山が有する独特の異気から生じる様々な精霊をさします。しかし、田澤氏が描き続ける「魑魅魍魎」は、私たちが毎日直面するいろいろな出来事や職業を現代の“百鬼夜行の姿”として表現したものです。

グロテスクの中にユーモアが潜み、破滅の中に救済がある構成画は、地獄の変相図を媒体としていますが、実は私たちの中に潜む無明の業の倒錯となって生み出される凄絶な人間誰しもが持つ、“生”への変身像を描写したものです。

自由で闊達な筆と多くの色彩を多様し、いろい

ろなしぐさでキャンバスいっぱいに描かれた山や川の精霊たちを描写した、絵画で見る「田澤茂の精神世界」を御鑑賞ください。



「魑魅魍魎」 F120号

「鬼剣舞展」 7/20～9/1

東北自動車道 PAで

帰省客の増えるこの時期に、より多くの人々に岩手を代表する民俗芸能「鬼剣舞」を広く知ってもらおうと開催されました。

この企画は、東北自動車道・北上金ヶ崎パーキング（下り線）売店の運営元である奥羽道路サービス株式会社の提案により実現したものです。

第2企画は「北上市と鬼」とし10/4～11/5まで鬼の絵画を中心に展示し、北上市と鬼との関係をアピールします。



優しい音色

「小さな小さな箏音楽会」

「邦楽愛好会」（菊池洋子代表）主催の「小さな小さな箏音楽会」は5月から10月に毎月1回、年間6回、鬼の館のエントランスホールを会場に開かれています。

生涯学習の場として、また、市民に親しまれる博物館づくりの一端として平成12年度から始まり、今年で3年目になりました。



オカリナ・バイオリンなど毎回多彩なゲストを迎えておりなすハーモニーは来館者を魅了します。

10月27日（日）午後3時より北上マンドリンアンサンブルをゲストに今年最後の公演となります。

お聴きのがしなく…

博物館実習指導

当館では、学芸員資格を取得する方々のために、例年その指導にもあたっています。

今年も1名を受け入れての実習指導となりました。

博物館実習を振り返って

専修大学 文学部四年 武田善哉

八月十八日から八月三十一日までの二週間にわたり、北上市立鬼の館で博物館実習をさせていただきましたが、実に学んだことの多い実習となりました。

資料の保存、実測、受け入れなど、学芸員本来の作業の難しさもさることながら、館を運営するための事務処理、事業・企画の立案、その過程でなされる様々な事務手続きなど、その仕事の多さと複雑さにはただ驚かされるばかり。主任学芸員のおっしゃっていた、「学芸員は雑芸員である」という言葉を身をもって思い知らされました。

また、博物館では様々な問題をかかえており、実際にその場で働いている人達と接することにより、博物館の運営の実状や、博物館、学芸員に対する地方行政の認識の度合も知ることができました。

今回の実習では、自分の未熟さゆえに成すべきことを成せなかったり、自分の問題点を厳しく指摘されたりと悔しい思いもしましたが、自分自身を見つめ直すよい機会になりました。

最後に、多忙な時期にこの実習の受入を快諾して下さった力丸光雄館長、実習を担当して下さった鈴木明美主任学芸員、並びに色々と御指導いただいた鬼の館の職員の方々本当にありがとうございました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



拓本採取の実習風景



企画展図録
エミシ
北の鬼の復権
謂われなくして
征討され滅んで
行った「エミシ」
「エミシ」の歴史は
本当に「おに」か…
一部・千円（税込）

『できごと Oni Museum』

～新聞の見出し～

H.14上半期

鬼とのつながり身近に 創作民話の入選作品集発刊 北上「鬼の館」 「こけし展」を実施	〔岩手日日 4/5〕
14年度事業計画 初の施設開放で 鬼の館で収蔵資料展	〔岩手日日 4/6〕 〔読売新聞 4/11〕
鬼の館特別展「収蔵資料展」 勇壮な舞 今年度も披露	〔河北新報 4/12〕
鬼の館 芸能公演28日からスタート 前年度上回る2万9286人	〔岩手日日 4/13〕
“鬼”をテーマに各種イベントが人気 躍動的な舞で魅了 芸能公演がスタート	〔岩手日日 4/17〕 〔岩手日日 4/30〕
あこがれの「鬼」に変身 北上でイベント 子どもら装束試着	〔岩手日報 5/6〕
個性あふれる「鬼」勢ぞろい こどもの日でイベント	〔岩手日日 5/6〕
各種のこけしを紹介 14日から特別展 見習おう弱者への配慮	〔岩手日日 5/12〕
鬼の館、ホテルシティプラザ北上 北上アクセシブル大賞決定 車椅子利用者も安心	〔岩手日報 5/15〕
こけし700点スラリ 愛好者団体が企画展 弱者への配慮、地域発展に	〔岩手日日 5/17〕
ホテルシティプラザ北上と市立鬼の館が受賞 北上、アクセシブル大賞決定	〔岩手日日 5/19〕
東北の薫りに表現 鬼の館でこけし展 10系統余700本展示 9月末まで職人も併せて紹介	〔岩手日報 5/27〕 〔岩手日日 5/29〕
来月2日に開講「鬼っこわんぱく講座」 障害者への配慮にたえる	〔岩手日日 6/1〕
鬼の館/ホテルシティプラザ北上 第1回アクセシブル大賞受賞	〔岩手日日 6/8〕
あす北上で大乗神楽大会 17演目を予定 伝統の舞を堪能 北上で大乗神楽大会	〔岩手日日 6/11〕
「鬼かけっこ物語」発刊 鬼テーマの創作民話を公募 北上市教委 初の絵本化、無料で配布	〔朝日新聞 6/13〕
道祖神テーマに民間信仰考える 「鬼学講座」あす開講	〔岩手日日 6/15〕
公募作品基に絵本発刊 「鬼かけっこ物語」教育施設へ無料配布	〔岩手日日 6/17〕
「ONI」を世界共通語に 鬼学講座が開講 東北の民間信仰探る	〔岩手日日 6/17〕
先人の技術、肌で学ぶ 「たたら製鉄」に挑戦 溶鉱炉造り、砂鉄採集、製錬 鬼っこわんぱく講座	〔岩手日日 7/10〕
心やさしき鬼郷土かける 公募民話もとに絵本 実在の地名や伝説ふんだん 「親子の対話に活用を」	〔岩手日報 7/10〕 〔広報きたかみ 7/12〕
「鬼かけっこ物語」を無償で配布します 公募絵本市民に配布	〔岩手日日 7/12〕
「鬼かけっこ物語」家族の対話促す 異なる顔がお出迎え 「みちのくこけし展」	〔岩手日日 7/26〕
東北地方11系統、1000点を紹介 鬼剣舞の面、装束を展示	〔岩手日日 7/28〕 〔岩手日日 7/29〕
東北道の北上金ヶ崎PA 創作絵本に184通の応募 抽選で当選者を決定 子供たち対象にこけしの絵付け 参加者を募集	〔岩手日日 8/1〕
思い思いに筆走らす 子供対象に創作講座 こけしの絵付けに挑戦 きょう、鬼の館、旧盆芸能公演	〔岩手日日 8/6〕 〔岩手日日 8/11〕
上手にできた？ 夏休みの小学生 魔よけすだれ作りに挑戦 目を輝かせ、鉄作り貫徹、古来の技法 5時間	〔岩手日日 8/17〕 〔岩手日報 9/17〕
先人の知恵と技術体感 鬼の館でたたら製鉄体験6キロの鉄塊抽出に成功 現代の「鬼」を探る 鬼の館 迫力ある作品一堂に 世情の出来事「魍魎廻廊」として表現 田澤氏の油彩画と墨彩画30点を展示	〔岩手日日 9/18〕 〔岩手日日 9/30〕

鬼学ノート

—「告死現象」とその実例について—

根子英郎

【はじめに】

・人の死について、親類などが何かの前知らせを受けるといふ俗信がある。「人の死を告げる現象」では、多くの不思議な出来事に加え、「幽霊」・「生霊」のいずれとも言い切れぬ存在が見られる。ここではその内容と実例を簡単に紹介したい。

【告死現象の内容】

・人が死亡する前後に、死者と血縁や懇意の関係にある者が、聴覚・視覚などの感覚や周囲の出来事からその死を告死されたと考える現象。幻姿・人魂、声・足音等の音、夢や金縛り、物体移動、動物行動、その他の異常な現象がある。民俗学では俗信の一種であるが、靈魂観を端的に示すものと見られる。一般には「自分の死を知らせるため魂が抜け出す」「親戚や親しい人の家、寺などを回る」「現れ方に男女の違いがある」「感じる人と感じない人がいる」等とされる。

【経験する人物】

・親類・親戚や友人等、死者と親密な関係を持つ人々が多く、隣人・寺の僧侶等の場合では親密性よりも地域的な関係が深い場合もある。その他として、特別に人の死を事前に感じやすいという人もいる。

【発生の時期・場所】

・死亡する前、一週間から2、3日前とする例が最も多いが、それ以前の場合もある。臨終の時刻とほぼ同時という例も多いが、電話の通知等に先立って現れる例では死後の場合もある。親類の家や檀家関係の寺等の場所に多く、共通して「玄関に来るのは男で、台所に来るのは女」と言われる。死者の関係する場所以外でも現れるが、川・橋・辻等が関係する例は、靈魂が出現する場所と境界

の関連性をうかがわせる。

【現象の形態】

・体験者の身体的な感覚によるものと、人の周囲で実際に起こる現象によるものがある。

- (1) 幻 視 (①幻姿 ②人魂 ③その他)
- (2) 幻 聴 (①声 ②足音 ③その他)
- (3) その他感覚 (①夢 ②金縛り ③その他)
- (4) 人物の言動 (①死者本人 ②本人以外)
- (5) 物体移動
- (6) 生物行動 (①化身 ②感知 ③その他)
- (7) 異 変

【告死現象の実例】

「親戚への訪問」危篤状態の父親が「あー、本家に行って来た、子供たちが寝てた。」と言ったが、本家では「分家のおじいさんが来た、怖い。」と子供が話すので、「分家のおじいさんは病院にいるのにどうして来るのだ。」と叱ったそうだ。

「寺への訪問」台所で戸の開く音がして、妻が見ても誰もいなかったが、また音が聞えたので、「誰か亡くなったのでないか。」と、来客と話をしていた。近所のおばあさんは「今、お寺に行ったが、お客さんが来ていたので戻って来た。」と話してから亡くなったという。

「家に入らない客」親戚の男の人が久しぶりに訪ねてきたが、縁側の前から中に入らなかった。「お茶を飲んでいけ。」と声を掛けたが、「ちょっと寄っただけだから。」と帰った。その後すぐに、この人が亡くなったと知らせが来た。

「橋上での会話」夜、父が町からの帰りに橋の上で知り合いのおばあさんに会った。「こんな遅くどこへ行って来た。」と聞くと「〇〇の家からの帰りだ。」と答えたという。次の朝、おばあさんが亡くなったと知らせが来たので昨夜の話をすると、その頃は容体が悪くなり、親類に知らせようとしていた時だったと言われたそうだ。

「一瞬見えた姿」本家の奥さんが外で休憩中に、

ニコニコとお辞儀するおばあさんの姿が見えた気がした。「何かあったか。」と、急いで家に帰ると「〇〇のおばあさんが、さっき亡くなった。」と、知らせが来た。本家生まれのおばあさんが、姿を見た時間に亡くなっていた。

「不明確な姿」寮で寝ていると、枕元に黒っぽい人が座っているのがぼんやりと見えた。他の人達は「見えない。」と言い、「タマシイだったら他の人に見えない、誰か親戚かなあ。」と思った。夜明けと同時に消えて、後から電報が届いたが、既に母親は亡くなっていた。

「人魂の訪問」頭の丸い尾を引いた青くて赤い物が飛んで来た。具合の悪い知り合いのおばあさんかと思い、「弟の家に行くのか。」と見ていると、そこで消えた。「タマシ見た、〇〇ばあさん長いことない。」と話していると、4日目に死んだ。

「寺に来る人魂」以前、寺の隣の家の人は火の玉を見るのがよくあり、「門から石段を上がり、向拝を通って本堂の中に飛び込む。」と教えられた。「裏から抜けて行った。」と聞いて2、3日経つと知らせが来るのがよくあった。

「知人の声」夜、弟が風呂に入っていると「今晚は、〇〇。」と名前を呼ばれ、「はい」と返事をした。近所のおばあさんの声だと家族の皆が思っていたが、間もなくその人は亡くなった。

「玄関の足音」夜、玄関の前まで来るズスズススという足音が、自分と寺に来ていた隣の奥さんに聞こえたが、主人達には聞こえなかった。戸の外には誰もおらず「不思議だ。」と話していると、2日後に近くの人が亡くなったが、山仕事で腰を痛めて片足を引きずる癖がある人だった。

「玄関の戸を開ける音」夜中、大きな木戸をガラガラと開ける音がした。「こんな夜中に誰も来るはずがない、叔父は死ぬのか。」と思っていると、10日も経たないうちに死んだ。

「台所の音」旧制中学に通うため自分は別の寺にいたが、お勝手の方で茶碗がカタカタと鳴って奇妙に思っていると、次の日に「妹が危篤だ。」と連絡が来た。妹の魂が知らせたのだと思った。

「寺の鐘の音」寺の脇に住んでいたおじいさんは、「和尚さん、近いうちにお客さんがありますよ。」という人で、「夕べ、本堂で鐘を叩いた。」と言っていると、4、5日後に人が亡くなったと連絡の来ることがよくあった。

「過去の死者の夢」近所に住む甥が亡くなる前、その母親にあたる人は不思議な夢を見たそうだ。家族が病状を教えないでいると、夢に義理の祖母と父親が現れ、「早く行ってみろ、〇〇は駄目だ、今行かないと会えない。」と教えたので、病院に行くのと、既に息子は意識不明となっていた。

「金縛り」寝床で、眠ったかどうかというときにオツツケられるのは、「タマシが来ているのだ。」といい、目上の人は頭の方、目下の人は足の方から来るという。「誰某が来た。」と話しても本気にされないが、2、3日後に人が亡くなる。

「消えた行事飾り」近所の人を立てた疫病退散祭の飾りが取れてなくなってしまい、「不吉なことがなければよいが。」と思っていると、その晩、おばあさんが台所で突然倒れて亡くなった。

「鼠の出現」金色の小さな鼠が出てきて、コタツの側をクルクルと走り回ってそのうち見えなくなった。次の朝、知り合いが亡くなった。

「鳥鳴き」入院中だった祖母から、「病室のすぐ近くの木で、一週間程鳥が騒いでいるが、変わったことはないか。」と電話があったが、その次の日に姉が亡くなった。

「映らない影」田植えの時に影が映らなかった人が一人あり、「他の人は映っているのに変だな。」と思っていると、その晩に死んだという。

鬼の里だより

◎企画・展示

〈特別展〉平成13年度収蔵資料展
3/10～5/6 =入込客数4,809人=
〈特別展〉みちのくのこけし展
5/14～9/29 =入込客数15,037人=

◎鬼学講座

6/16 「民間信仰の鬼」～道祖神の種々の相～
講師：鬼の館館長 力丸光雄氏 参加者 25人
7/20 「秋田の鬼」～道祖神としてのカシマ神～
講師：秋田県民俗学会 斉藤壽胤氏 参加者 27人
8/31 「青森の鬼」～家の守り神としての鬼～
講師：青森県立郷土館学芸課長補佐成田敏氏 参加者 21人
9/28 「福島の鬼」～境界を守る鬼～
講師：福島県立博物館 佐治靖氏 参加者 31人

◎鬼っこわんぱく講座

5/5 「子供の日わくわくイベント」
「ものけとタタラ製鉄」 参加者 108人
6/2 ①粘土ブロック作り 参加者 2人

7/7 ②炉作り 参加者 4人
7/20 ③砂鉄取り 台風の影響で延期
9/8 " " 参加者 10人
9/15・16④合宿、精錬作業 参加者 33人

◎鬼ZZ・プレイミュージアム

・はりこ面づくり 24回 参加者 のべ316人
—夏休みイベント—
・はりこ面づくり 8/7・9・10 参加者 64人
・魔よけすだれづくり 8/16・17 参加者 37人

◎鬼の館芸能公演

4/28 鬼柳鬼剣舞保存会 観客 147人
5/4 二子鬼剣舞保存会 観客 225人
5/26 飯豊鬼剣舞保存会 観客 67人
6/23 相去鬼剣舞保存会 観客 66人
7/28 二子鬼剣舞保存会 観客 132人
8/11 岩崎鬼剣舞保存会 観客 85人
8/25 口内鬼剣舞保存会 観客 132人
9/22 御免町鬼剣舞保存会 観客 119人

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

- 休館日
- ・12月～3月の月曜日
 - ・12月～3月の国民の祝日の翌日
(土・日・月曜日の場合は火曜日)
 - ・館内整理日 (11月27日～12月2日)
 - ・年末年始 (12月28日～1月4日)
 - ・臨時休館日 (5/28・7/23・9/24・11/26)

入館料

一般	300円 (250円)
高校生	200円 (150円)
小中学生	150円 (100円)

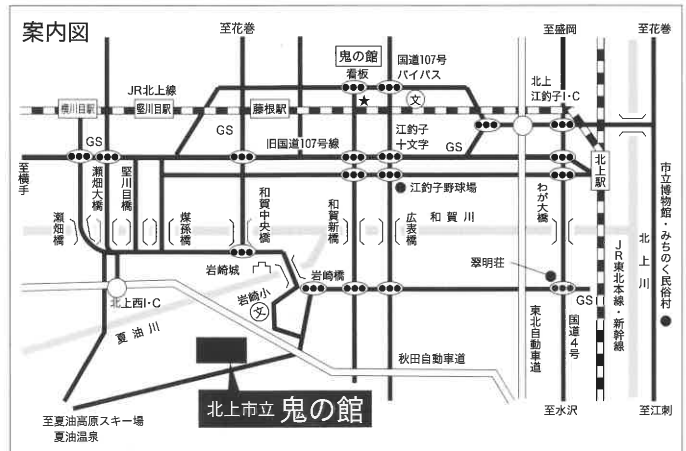
() 内は20人以上の団体料金。

下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土曜日
- ・社会体験学習のしおりの持参した時
- ・学習活動で申請利用する時

交通案内

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
- ・JR北上駅より車で20分。
- ・東北自動車道「北上江釣子I・C」、秋田自動車道「北上西I・C」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第17号 2002.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎6地割31番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508